



ビブリオエッセー

大阪府八尾市 望月隆昭 (86)

【戦艦武蔵】

ある時、テレビに映った綱引きのシーンを見て、私の患者さんだったFさんとの本を思い出した。Fさんは昭和19年、フィリピンの海に沈んだ戦艦武蔵の乗組員だった。瘦身だが凛とした老紳士のFさんは風邪をひくと鼻やどの具合が悪くなり、診察を受けに来た。診療を終え、私は奥さんから聞いていた武蔵のことを尋ねた。その沈没から生還までを。ご自身からは語ろうとしなかった過去だ。戦時中、一端の軍国少年だった私の中の残り火が騒いだのか。少し間を置き、Fさんはおもむろに語り始めた。

武蔵が沈んで行くのを見ながら浮遊物につかまり、重油の海に漂うこと約3時間。次々に戦友たちが海中に没していく中、やっと駆逐艦が来て一本のロープが投げられた。夢中でつかんだが、さらに海

沈む巨艦と一本のロープ

面を引きまわされた後の救助だったという。

吉村昭の記録文学『戦艦武蔵』は膨大な資料を整理、構成し、極秘裏に行われた武蔵の建造から悲劇的な終焉までを客観的に、即物的に描いている。巨艦に託した野望と多くの人命が失われた戦争への疑問。戦争と人間の本質を描いた大作だ。

Fさんは戦後、会社勤めを続けたが65歳で肺がんの手術を受け、大阪に移り療養生活を送っていた。私の医院を訪れたのもそんな時だ。以後、武蔵のことは語らなかった。穏やかな人柄に魅かれ、気心の通じた日々を約2年間。再び入院したと聞き、やがて訃報が届いた。享年81だった。

『戦艦武蔵』を読み、その中の武士に実際に逢い、生きよように触れた私は、得難い教えを受けたと思っている。

吉村昭 (新潮文庫)

2020. 3. 17

投稿はペンネーム可。600字程度で住所、氏名、年齢と電話番号を明記し、〒5556-8661 産経新聞「ビブリオエッセー」事務局まで。
メールはbiblio@sankei.co.jp。題材となる本は流通している書籍に限り、絵本、漫画も含みます。採用の方のみ連絡、原稿は返却しません。二重投稿はお断りします。